

台風1号について(7月7日11時00分現在)

今年の台風1号が、7月3日に発生しました。過去には1998年7月9日に最も遅い台風発生がありました。それに次ぐ遅さです。気になるのは、1998年と今年の天候がよく似ている点です。(発生16個上陸4個)

また、台風1号は、発生後3日で、中心気圧900hPa、最大風速60m、瞬間風速85mと猛烈な台風に発達しています。アメリカの基準ではスーパー台風になります。やや小型で、コンパクトに纏まっているので、中心付近は相当な暴風になっているため、宮古、八重山では厳重な警戒が必要です。

では、この台風1号について、解説しておきます。

1 中心気圧の経緯と予想

発生時、最盛期の示度は950hPa程度と予想されていましたが、この海域の海水温度が30度以上になっているため、発達に必要なエネルギー(潜熱)が十分補給されているため、1日で60hPaの発達を見せました。

この勢力を維持しながら、8日に台湾中南部に上陸する予想です。その後は台湾海峡を横断し、中国大陸に向かい勢力を弱める見込みです。

2 日本への影響

このコースの場合、日本への直接的な影響はありませんが、梅雨の時期の台風は、南から相当湿った空気(相当温位345k以上)をもたらすため、大雨に対する警戒が必要です。

これは、台風本体の南～南東風と太平洋高気圧の周辺部を回る気流とが日本の南海上で収束(この場合は合流)し、積乱雲を発達させるためです。

3 大雨について

宮崎地方の場合、南東斜面を持つため、南寄りの風が入る時、強制上昇気流が起きるため、他の地域より雨量が多くなります。

4 影響する時間

7日の深夜から8日の午前中。雨量は150mm、多いところでは200mm程度になります。低い土地での浸水、崖崩れ、土砂崩れに警戒を。

5 農業関係の予想

今回の1号の場合、宮崎では4のとおりの大雨が予想されます。心配された暴風はありませんので、大雨対策をしてください。早期水稻今年は生育環境が昨年よりも良くなってきますので、今回の台風対策は重要です。

台風は、12日かけ、中国大陸から朝鮮半島、日本海(低気圧)で通過していきます。本来ならば、ここで梅雨明けになるところですが、太平洋高気圧が勢力を6日をピークに後退するため、不安定な天気が続く、日照不足も想定されるため、最新情報を確認してください。